

ページ 表題	検討状況の報告 (06.12.22) から 渋谷駅中心地区まちづくりGL(案) (07.4.10) へ	渋谷駅中心地区まちづくりGL(案) (07.4.10) から 渋谷駅中心地区まちづくりGL2007(案) (07.7.19) へ	渋谷駅中心地区まちづくりGL2007(案) (07.7.19) から 渋谷駅中心地区まちづくりGL2007 (07.10.26) へ
P1、2 はじめに	<p>○「渋谷駅中心地区まちづくりガイドラインの目的・位置づけ」と題されたページの内容を「はじめに」の見出しの下にまとめた。</p> <p>○「まちづくりガイドライン」を策定する目的に、「(行政と民間事業者の間の) 公民パートナーシップによる都市再生」とともに、「都市再生緊急整備地域全体、さらに広域を念頭に、渋谷全体の再生・活性化」を追加。</p>	<p>○「まちづくりガイドライン」を策定したのは誰か、「ガイドライン検討会」を設置したのは誰か、また「まちづくりガイドライン」を指針として、公民パートナーシップによるまちづくりの実現を図っていくのは誰か、主語があいまいであったが、主語は「渋谷区」であることを明確化。</p> <p>○「ガイドライン検討会」の構成の説明：「学識経験者・行政・事業者等による」を「政策大学院大学の森地茂教授を座長とし、行政、学識経験者、開発事業者から構成される」に置き換え。</p> <p>○「今後、社会情勢・開発状況等の変化にあわせ、「まちづくりガイドライン」の内容については、適宜見直しを図っていく予定」との文言を追加。</p>	<p>○「まちづくりガイドライン」の検討において、「渋谷駅周辺地域の整備に関する調整協議会」等との調整に配慮するのは誰であるのか主語があいまいであったが、「ガイドライン検討会」でのまとめを基本とし、「渋谷区」が調整に配慮することを明確化。</p> <p>○「ガイドライン検討会」の構成の説明：「政策大学院大学の森地茂教授を座長とし、行政、学識経験者、開発事業者から構成される」を削除。</p>
P3、4 渋谷における 都市再生の意 義、位置づけ	<p>○まちづくりガイドラインの「駅中心地区の将来像とそれを実現する7つの戦略」が導かれた手順の説明から、「東京の都市再生」における「渋谷の都市再生」の意義・位置の解明へ、内容を全面的に入れ替え。</p> <p>○表題：「ガイドライン(案)の全体構成」を「渋谷における都市再生の意義、位置づけ」に変更。</p>		<p>○「渋谷の都市再生の意義・位置づけ」の中の、「広域渋谷圏そしてその中心地である渋谷地区」を「広域渋谷圏」と渋谷地区」に置き換え。</p>
P5、6 駅中心地区の 将来像	<p>○「駅中心地区の将来像を実現する7つの戦略」が、「都市再生緊急整備地域の地域整備方針」の「整備の目標」から抽出された5つの整備方針、即ち「生活文化、谷地形、歩いて楽しいまち、安全安心、連鎖的なまちづくり」等から導かれたという説明から、「都市再生緊急整備地域の地域整備方針」全体を組み直してつくられた7つの整備課題から導かれたという説明に変更。</p>		<p>○将来像の副題：「～職・住・楽の連携により新しい文化を創造し、環境と共生するまちを目指して～」を「～広場・坂・路面店を活かした、めぐり歩ける、環境と共生するまちを目指して～」に変更。</p>
P7、8 戦略1”渋谷 を発信する”	<p>○緊急整備地域の整備方針から、渋谷の独自性・課題の分析を経て、駅中心地区が果たす役割を導く過程の説明によるページ構成から、まず駅中心地区が果たす役割(駅中心地区のまちづくり方針と名前を変えて)を提示し、そのための方策の詳細や具体的イメージを展開するページ構成に変更。以下、戦略2～6も同様。</p> <p>○駅中心地区が果たす役割：「(1)まちそのものが”生活文化”の舞台であり、ここからアジア・世界を結ぶ”生活文化を創造、発信、交流する場を形成。(2)駅中心地区は渋谷において特に活動の高いエリアであるため、優れた文化機能の集積により、渋谷の持つポテンシャルを高め、さらなる成長を索引していく」の(2)を削除した上で、GL(案)のまちづくり方針に。</p> <p>○表題：「”生活文化”の発信・交流拠点の形成」を「”渋谷を発信する”～”生活文化”の創造・発信拠点～」に変更。</p>		<p>○まちづくり方針の説明冒頭の、「コンパクトなエリアの中で、」を削除。</p> <p>○方策3の具体例3：「広域渋谷圏に居住する人々を魅了する地区特性を踏まえた商業・業務機能の導入」を「地区特性を踏まえた商業・業務の機能分担・育成」に置き換え。</p>

ページ 表題	検討状況の報告 (06.12.22) から 渋谷駅中心地区まちづくりGL(案) (07.4.10) へ	渋谷駅中心地区まちづくりGL(案) (07.4.10) から 渋谷駅中心地区まちづくりGL2007(案) (07.7.19) へ	渋谷駅中心地区まちづくりGL2007(案) (07.7.19) から 渋谷駅中心地区まちづくりGL2007 (07.10.26) へ
P9、10 戦略2”谷を 冷やす”	<p>○戦略1と同様のページ構成全体の変更。</p> <p>○駅中心地区が果たす役割をそのまま、GL(案)のまちづくり方針に。</p> <p>○「渋谷駅周辺地域全体における水と緑の南北軸」を示す図に添えられていた「谷地形を活用した環境と一体化したまちづくり～水と緑の軸、風の道の形成～」の文言を削除。</p> <p>○方策3：「風の道・水と緑のネットワークにより、潤いのある都市空間を形成」から「風の道・」を削除。</p>		<p>○方策3：「水と緑のネットワークにより、潤いのある都市空間を形成」を「緑と水のネットワーク、風への配慮により、潤いのある都市空間を形成」に変更。</p>
P11、12 戦略3”都市 回廊を創出す る”	<p>○戦略1と同様のページ構成全体の変更。</p> <p>○駅中心地区が果たす役割：「(1)広域渋谷圏を形成する回遊ネットワークの”起点”を形成。(2)谷地形や乗換え動線のバリアを克服し、過渡に集中する歩行者を快適に回遊させるネットワークを形成。(3)限られた空間を有効に活用した公民連携によるネットワークの形成」において、(1)「回遊ネットワーク→歩行者ネットワーク」、(2)「過渡に集中する歩行者を快適に回遊させるネットワーク→楽しく・わかりやすく・快適な歩行者ネットワーク」、(3)「公民連携によるネットワーク→歩行者ネットワーク」の置き換えをした上で、GL(案)のまちづくり方針に。</p> <p>○表題：「子供からお年寄りまでの多世代が歩いて楽しいまちの実現」を「”都市回廊を創出する”～子供からお年寄りまでの多世代が歩いて楽しいまちの実現～」に変更。</p> <p>○方策1：「地上部をメインとしながら、谷地形をフラットにつなぐ歩行者ネットワークの整備」を、方策1：「地上部を中心とした拠点開発とまちを結ぶわかりやすい歩行者ネットワークの整備」と方策4：「谷地形をフラットにつなぐ歩行者ネットワークの整備」の2つに分解。</p> <p>○「渋谷駅中心地区の歩行者交通量」と「渋谷駅付近の将来イメージ」を削除し、「まちをつなぐ多層的な歩行者ネットワーク形成のイメージ」及び「アーバン・コア(縦軸空間)のイメージ」を追加。</p>	<p>○デッキレベルの歩行ルートばかり目立っていた「まちをつなぐ多層的な歩行者ネットワーク形成のイメージ」を、主として地上レベルの歩行ルートを示す図に差し替え。</p> <p>○同図に「～歩行者ネットワークについては、地上部をメインとし、補完機能としてデッキ等を位置づける～」との説明を追加。</p> <p>○駅周辺の歩行者デッキを削減し、駅東西の広場(地上部)の整備を明記。</p>	<p>○副題：「～子供からお年寄りまでの多世代が、めぐり歩いて楽しいまちの実現～」における「めぐり」の挿入。</p> <p>○方策2：「多層な都市基盤やまちをつなぎ、地下・デッキから地上へ人を誘導する”アーバン・コア”の整備」における「地下・デッキから地上へ人を誘導する」の挿入。</p> <p>○渋谷の独自性と課題として、「国道246号線がまちを分断」の文言を追加。</p> <p>○「まちをつなぐ多層的な歩行者ネットワーク形成のイメージ」を地上部とデッキ部の2枚の図に分けて表現し、駅周辺の歩行者デッキを更に削減。</p> <p>○「アーバン・コアのイメージ」の(地上の)水平動線を強調。</p>
P13、14 戦略4”人間 中心のまちを つくる”	<p>○戦略1と同様のページ構成全体の変更。</p> <p>○駅中心地区が果たす役割：「(1)慢性的な交通渋滞を低減し、かつ快適な歩行環境を確保する、使い勝手のよい駐車場・物流機能を整備。(2)整備段階に応じた適切な駐車場ネットワークの形成・運用」においては、駐車場・物流問題に限定されていた地域交通問題を、公共交通機関の利便性向上や自動車流入交通量の削減などにテーマを広げた上で、GL(案)のまちづくり方針に。</p> <p>○表題：「駐車場・物流施設等の集約化による駅中心部の交通負荷の低減」を「”人間中心のまちをつくる”～交通結節機能の再編・強化等による快適な歩行環境の形成～」に変更。</p> <p>○戦略3で使われていた「渋谷駅付近断面イメージ」にアーバン・コア(縦軸空間)を書き加えて、「駅施設・駅前広場における交通結節機能の再編・強化の考え方」として提示。</p>	<p>○方策3：「駐車場地域ルールとの連携による駐車場の集約整備等」の具体例として、「駐輪施設の整備」を追加。</p>	<p>○渋谷の独自性と課題として、「幹線道路が駅中心地区を分断」とあったのを、「広域幹線道路が駅中心地区を通過し、交通混雑が激しい」と書き換え。</p> <p>○「駅施設・駅前広場における交通結節機能の再編・強化の考え方」の図に、地上の水平動線を追加。</p> <p>○「渋谷駅周辺地域全体での駐車場整備イメージ」の西口広場地下の駐車場表記を削除。</p>

ページ 表題	検討状況の報告 (06.12.22) から 渋谷駅中心地区まちづくりGL(案) (07.4.10) へ	渋谷駅中心地区まちづくりGL(案) (07.4.10) から 渋谷駅中心地区まちづくりGL2007(案) (07.7.19) へ	渋谷駅中心地区まちづくりGL2007(案) (07.7.19) から 渋谷駅中心地区まちづくりGL2007 (07.10.26) へ
P15、16 戦略5”安全 安心なまちを つくる”	<p>○戦略1と同様のページ構成全体の変更。</p> <p>○駅中心地区が果す役割をそのまま、GL(案)のまちづくり方針に。</p> <p>○表題：「街区再編や拠点開発による、災害に強く犯罪の少ない安全安心なまちの実現」を「”安全安心なまちをつくる”～街区再編や拠点開発による、災害に強く犯罪の少ない安全安心なまちの実現～」に変更。</p> <p>○「渋谷区防災マップ」削除し、「街区再編を核とする防災機強化対策イメージ」と「一時帰宅困難者対応施設のイメージ」を追加。</p>		
P17、18 戦略6”渋谷 らしさを強化 する”	<p>○戦略1と同様のページ構成全体の変更。</p> <p>○駅中心地区が果す役割をそのまま、GL(案)のまちづくり方針に。</p> <p>○表題：「谷、軸、通り・界隈を生かした”渋谷らしさ”をもった景観形成」を「”渋谷らしさを強化する”～坂・通り・界隈を生かした”渋谷らしさ”をもった景観形成～」に変更。</p> <p>○「”アーバン・コア”に囲まれたまちのアクティビティが感じられる駅前顔のイメージ」、「個性的な街並み、多様な界隈、活気とにぎわい景観の形成イメージ」、「水と緑がちな景観形成イメージ」を追加。</p>		<p>○副題：「～坂・通り・界隈を生かした”渋谷らしさ”をもった景観形成～」を「～広場・坂・路面店を活かした”渋谷らしさ”をもった景観形成～」に変更。</p> <p>○「渋谷駅周辺地域全体における景観の考え方」の中の書き込み：「遠景（展望台からの景観）」を「遠景（周辺市街地からの景観）」に置き換え。</p> <p>○「”アーバン・コア”に囲まれたまちのアクティビティが感じられる駅前顔のイメージ」の中にあるアーバン・コアの配置図を削除し、「街並み景観形成イメージ（渋谷駅東口）」を追加。</p> <p>○「群としての独立性を持った渋谷のシンボリックな景観のイメージ」の中の書き込み：「六本木ヒルズからの眺望」を「周辺市街地からの眺望」と書き換え、矢印と「六本木通り沿いの建物高さを誘導」を削除。</p>
P19、20 戦略7”みんな で育てるま ちづくり”	<p>○渋谷駅中心地区まちづくりGL(案) (07.4.10) で初登場。</p>	<p>○副題：「～渋谷の将来像を具現化する協働型まちづくりの進め方～」や、「まちづくりのステップのイメージ」の表題：「段階的・持続的・広域的な成長に向けた渋谷の協働型まちづくり」における「協働型」の挿入。</p> <p>○渋谷のまちづくり独自の課題云々の4番目に、「既存のまちづくり組織の体系化」として、「（既存のまちづくり組織の）相互の連絡が十分でなく、体系的な運営が必要とされる」とあるのを、「（既存のまちづくり組織の）相互の連絡をより一層高め、体系的な運営をしていくことが求められている」と書き換え。</p>	<p>○表題：「”まちづくりを育てる”～渋谷の将来像を具現化する協働型まちづくりの進め方～」を「”みんなで育てるまちづくり”～協働型まちづくりによる渋谷の将来像の具現化～」に変更。</p> <p>○渋谷のまちづくり独自の課題云々の4番目の表題：「既存のまちづくり組織の体系化」を「既存まちづくり組織との連携」とし、中身の「（既存のまちづくり組織の）相互の連絡をより一層高め、体系的な運営をしていくことが求められている」を「既存まちづくり組織との連携をはかりながら、まちづくりを進めていくことが求められている」と書き換え。</p> <p>○駅中心地区のまちづくり方針の中に、「まちづくり条例、その他条例などを踏まえたまちづくり」を追加。</p>
P21 奥付		<p>○渋谷駅中心地区まちづくりGL2007(案) (07.7.19) で初登場。</p>	<p>○「渋谷駅周辺地区まちづくりガイドライン検討会名簿」を削除。</p>